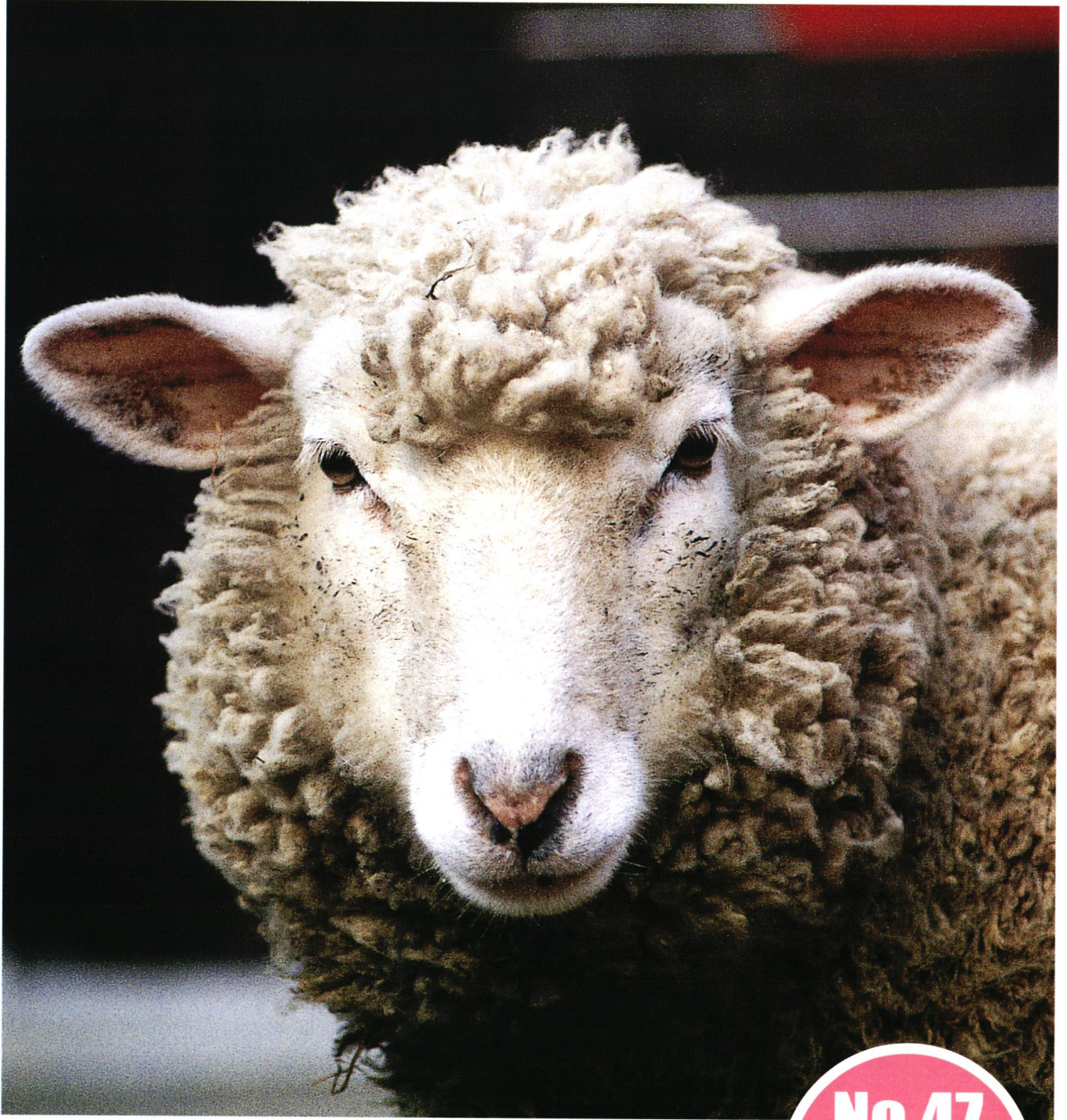


どうぶつこうえんニュース



ロバの出産 (奇蹄目・ウマ科)



午年の最後に子ども牧場でウマの仲間のロバの赤ちゃんが誕生しました。

子ども牧場では一昨年の10月の改装開園からロバのオス“マツゴロウ（15歳）”・メス“プラム（7歳）”を飼育展示しています。マツゴロウは子ども動物園で改装工事前よりいる古い仲間、長い間一人暮らしが続いてやっとお嫁さんのプラムがきました。プラムはマツゴロウより少し大きくちょっと神経質ですが、仲むつまじく暮らしていました。

昨年の夏頃よりプラムのお腹が目立ち始め、妊娠し

ているのが解りました。まだか、まだかと心配していたところ12月11日の朝、可愛い仔ロバがプラムの脇に立っていました。産後のプラムは食欲もあり、仔ロバに乳も与える様子が観察され一安心しました。仔ロバは女の子で、人なつっこく部屋の中に入るとプラムよりも僕たちに近づいてきます。クリスマスの頃から放飼場にも出るようになり、お客さんに可愛い姿を見せています。仔ロバの名前は「カグヤ（伽具耶）」といって竹取物語のかぐや姫から付けました。カグヤが生まれ、プラムと離れ離れになってしまったマツゴロウはプラムが恋しいのか、柵を行ったり来たりしてとても大きな声で鳴いています。

ロバはアフリカのロバを家畜化したもので、世界では約3,900万頭飼われています。主にアフリカや南米で使役（物を運んだり動かしたりする）動物として働いています。日本ではそのほとんどが動物園で飼育されており、その数も200頭ほどです。ロバが日本で家畜として広まらなかったのは、その大きな鳴き声のせいかもしれません。

皆さん、ゆかいなマツゴロウ一家を是非動物園に見に来てください。

濱田昌平 (Masahira Hamada)

目次

CONTENTS

表紙【ヒツジ(コリデール)】	①
トピックス【ロバの出産】	②
特別展示室より	③
ーどうぶつカルタ人気投票が行われましたー	
モモタロウ 3歳おめでとう! 写真募集	③
特集【動物公園この1年(出産・新着)】	④～⑤
動物公園の動物【フサオマキザル】	⑥
飼育よもやま話【アメリカパイソン】	⑥
動物公園日誌から【'02.11/1～'03.1/31】	⑦
裏表紙【ペルーイワドリ】	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 ヒツジ (コリデール)

世界各地で飼われているヒツジの総頭数は、11億3000万頭以上ともいわれ、人類の重要な家畜の一つで、毛や肉あるいは乳を利用するため、数多くの品種が作りだされました。そのなかでも、コリデール種は産毛量も多く、肉質も良くて飼いやすいため、日本の牧羊の中心的な品種をなしてきました。しかし、日本の自然条件や飼養形態が牧羊に適していなかったことなどから、現在、ヒツジは主に北海道で飼われているほかは、観光牧場や動物園などで飼われているにすぎません。

秦 舜二 (Shunji Hata)

動物飼育数

Classified number of animals
as of 31.Jun.2003

平成15年1月末現在の飼育数

哺乳類	66種	399点	両生類	1種	2点
鳥類	79種	294点	魚類	0種	0点
爬虫類	7種	24点	総計	153種	719点



人気投票が行われました！

平成15年を迎えて、1月2日より動物科学館2階の展示室で「どうぶつカルタ」の絵と読み札の展示が行なわれました。昨年12月だけの応募期間でしたが、128作品が集まりました。1月4日から31日まで、ご覧になったお客様より、お一人5つまで「好きなカルタ」を選んで投票していただ

きました。その人気投票の結果、上位30名様の作品が同展示室でご覧になれます。これらの人気作品の中から、当園オリジナルのカルタを製作させていただく予定です。お楽しみに。

並木 美砂子 (Misako Namiki)



▲もっとも人気の集まった作品



モモタロウ3歳おめでとう！



ニシローランドゴリラのモモタロウが、この7月に3歳を迎えます。とっても元気なモモタロウは、いつでも人気者。3歳を記念して、動物公園協会では、6月1日より7月31日までモモタロウの写真を募集し、8月いっぱい写真展を開催します。写真は、キャピネサイズまでで、どなたでもお持ちいただけ、動物科学館ホールの決められたスペースに、ご自分で貼っていただけます。詳しい募集要項は、5月1日付の『市政だより』をご覧ください。動物科学館受付でもご案内しています。

並木 美砂子 (Misako Namiki)



マレーバク出産



出産日：2002.6.4



撮影日：2003.1.17

カンムリバト孵化



孵化日：2002.8.14 (撮影日：2002.8.30)

動物公園
出新

カリフォルニアアシカ出産



出産日：2002.6.4



撮影日：2003.1.10

ロバ出産



出産日：2002.12.11 (撮影日：2002.12.13)

アフリカヘラサギ孵化



孵化日：2002.11.18

キンカジュウ新着



来園日：2002.3.13



フサオマキザル新着



来園日：2002.9.9



撮影日：2003.1.10

この1年
産着

パカ新着

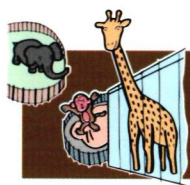


来園日：2002.9.18

アメリカバイソン新着



来園日：2002.10.16



動物公園ニュース (動物公園の動物)

フサオマキサル

今回は、昨年11月よりモンキーゾーンに新しく登場した“フサオマキサル”このサルに秘められた、とても優れた能力について紹介します。

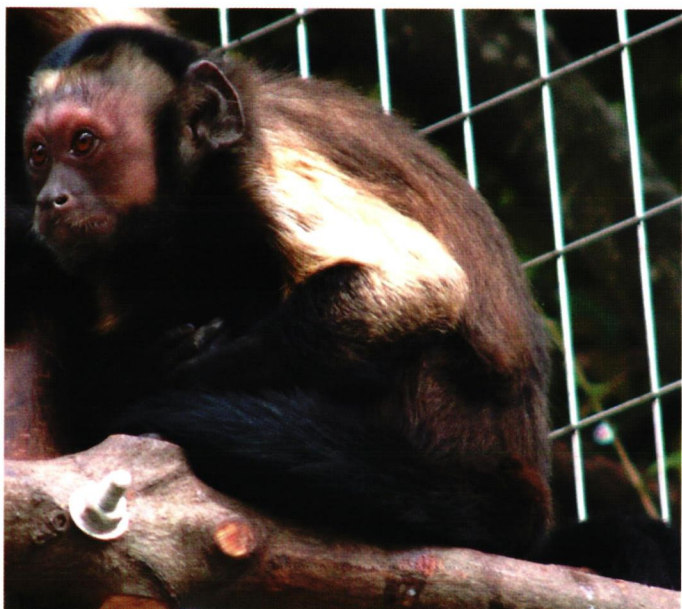
ちなみに、フサオ・マキサルではなく、フサ・オマキサルです。頭の両側にフサ(房)のような毛を持つオマキサル科のサルで、その名のごとく、コイルのようにくるくると巻いた尾が特徴です。

フサオマキサルは、中南米の熱帯降雨林に最も広く、そして個体数も多く生息しています。それは、他のサルに比べて優れた能力を持っているからです。竹の表面に小さな穴を開け筒の中に生息するカエルを、見事に竹を割って捕まえたり、ネズミやコウモリ、リスやトカゲなどのすばしい動物でもそれぞれの習性を熟知した上で、実に効率よく捕まえたりできる知恵があります。また、ヤシの実に似たクレマという堅い実を竹の節を利用し、実の熟れ具合によって割り方を2通り使い分けしたり、その他の植物も性質や部位の構造上の特性を熟知していて、それを見事に利用しています。

当園では、一節の竹筒に小さな穴を開け、その中にヒマワリの種やミルワーム(虫)を入れ、与えています。転がしては中身を出したり、落としてみたり、かじってみたり、最終的には竹をはがして中身を全部取り出して食べてしまいます。

知能が高く指先が器用なため“南米のチンパンジー”ともいわれ、海外では「介助猿」として老人や身障者の生活のお手伝いをしています。

好奇心旺盛でいたずら大好き、動作や表情もユニーク、きっとあなたの前でも何かやらせてくれるでしょう！



中村 彰宏 (Akihiro Nakamura)



飼育よもやま話

アメリカバイソン



去年の8月に動物公園開園以来、飼育していたヨーロッパバイソンのオス(テツ)が死んでしまい、その後釜として、群馬サファリパークより10月16日にアメリカバイソンのオス1頭、メス1頭が来園しました。このアメリカバイソンは、2頭とも平成13年生まれで、1歳半ぐらいの子どものため、大人のバイソン用に作られている部屋や、展示場の鉄柵の柵と柵の間から頭や体が抜けてしまいそうなため、柵の間に鉄管を入れて、柵の間から体が抜けないように準備しました。

また、群馬サファリパークでは、一年中外で60頭の群れの中で暮らしていました。当園に来てから1頭ずつ別々の部屋に入れなければならず、メスが1頭だけになるのをいやがり部屋で暴れていました。一方オスはエサがもらえる時だけ室内を歩き回るぐらいで、普段はおとなしくしていました。検疫期間も、メスは1頭だけで外に出ると、仮柵の中で暴れ回り、仮柵に激突していました。ただオスの近くにいたいようで、部屋の扉を開けるとすぐに部屋に入ってきてエサも食べずにオスの部屋の方を向いています。オスはメスに関心のない様子でエサを食べのんびりしています。メスは検疫が終わりになるまで落ち着くことはなく、部屋の前を左右に行ったり来たりしていました。検疫が終わり、オスとメスを一緒に展示できるようになると落ち着きだしました。朝、展示場に出る時は、展示内を思いっきり1周走ってからエサを食べています。オスはメスに目もくれず、エサにまっすぐ行っておいしそうにエサを食べています。

こんな性格の反対のオスとメスですが、去年の12月の中ごろに、オスがモート(堀)に降りるための階段横の植栽の中に入ってしまう、あわててその植栽に入れないように鉄管を立てました。バイソンでも1歳半ぐらいの子どもだと身軽で驚かされました。まだ子どものしぐさもあり、身軽に走り回るアメリカバイソンを見に来てください。

鈴木 克典 (Katsunori Suzuki)



動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'02年11月1日~'03年1月31日

- 11月1日 オオカンガルー（雄1・雌1） 桐生が岡動物園より寄贈にて新着
- 11月2日 ZOOクイズラリー開催
- 11月3日 フサオマキザル 麻酔下にてツベルクリン接種 実施
- 11月4日 アカハナグマ（仔・4頭） 繁殖
- 11月5日 カリフォルニアアシカ（仔） 本日よりペンギン池裏プールに移動させる
- 11月6日 ホンドザル サル山に縄梯子を新たに設置
- 11月7日 スローロリス テレビ取材あり
- 11月9日 「アニマルスクール」開催
（動物たちのエサについて）
- 11月11日 カオムラサキラングール（1頭） 繁殖
- ホンドザル 全頭・破傷風接種 実施
- 11月13日 ワタボウシパンシェ いしかわ動物園に寄贈にて搬出
パカ（雄1） 購入にて新着
- 11月14日 ヒオドシジュケイ（雌1）・アメリカオシ（雄1・雌1）
交換にて新着
- 11月17日 写真コンクール表彰式及び記念講演会開催
アフリカヘラサギ（1羽） 孵化
- 11月19日 ゲルディーモンキー（雄1） 腸炎にて死亡
- 11月21日 パタスザル（雌1） 死亡
フサオマキザル（雄1・雌1） 検疫明け
カリフォルニアアシカ オゾン装置の点検の実施
- 11月24日 「ワンポイントウォッチング」開催
（アジアスイギュウ）



- 11月26日 全国動物園技術者研究会 飼育課濱田出席（於：群馬サファリパーク）
- 11月28日 カピバラ（雌1） 購入にて新着
ケープペンギン（雄1） 死亡
- 11月29日 アメリカオシ（雄1・雌1）、ヒオドシジュケイ（雌1）
検疫明け
- 11月30日 パカ ペアリング試みるが、闘争あり
- 12月2日 動物舎補修工事 実施
猛禽類 ニューカッスル予防接種 実施
- 12月4日 ショウガラゴ（1頭） 繁殖
- 12月8日 **クリスマス音楽会開催**
ハワイガン（1羽） 左翼・断翼 実施
アミメキリン 寒さのため、夜間ストーブを設置
- 12月10日 ヤイロチョウ（雄1） 衰弱にて死亡
- 市内中学校 職場訪問2名 受け入れ実施
- 12月11日 市内中学校 職場訪問7名 受け入れ実施
ケープペンギン（雌1） 心不全にて死亡
ロバ（1頭） 繁殖



- 12月12日 カピバラ（雌1） 検疫明けにて子ども動物園内に移動
- 12月13日 ホウオウジャク（雄1） 頭部打撲にて死亡
- 12月16日 ソウ舎自動扉 修理
- 12月17日 ムフロン（雌1） 死亡
- 12月19日 アカハナグマ 仔4頭 展示始める
- 12月20日 カピバラ 本日より2頭での展示始める
- 12月21日 ワタボウシパンシェ（雄1） 衰弱にて死亡
- 12月22日 ケープペンギン（5羽） 保温のため移動させる
- 12月24日 スローロリス（雄2） 緊急保護にて新着
- 12月29日 シロガオマーモセット（3頭） 繁殖

平成15年

- 1月1日 ヒオドシジュケイ（雄1） 腸炎にて死亡
- 1月2日 新春お年玉プレゼント実施（～3日）
- 1月6日 ケープペンギン 強制給餌中の吐き戻しみられる
- 1月8日 マンドリル 放飼場に止まり木 設置
- 1月9日 どうぶつこうえんニュース 編集会議 開催
- 1月10日 アルダブラゾウガメ 脱肛のため台車利用し、展示する
- 1月12日 **バードウォッチング開催**



- 1月15日 フクロテナガザル 放飼場にゴムボール投げ入れあり
マンドリル 交尾行動あり
- 1月16日 フタユビナマケモノ 全頭爪切り 実施
- 1月17日 エリマキキツネザル 交尾行動みられる
市内中学校 職場訪問6名 受け入れ実施
姫路市立動物園にヘビクイワシ（1羽） 交換にて搬出
姫路市立動物園よりベニバシガモ（雄1・雌3）、
アカハシハジロ（雄2・雌2） 交換にて新着
- 1月19日 アミメキリン（1頭） 繁殖するが、後肢開脚にて起立不能。哺乳みられず
- 1月20日 アミメキリン（前日繁殖個体） 死亡
- 1月21日 関東東北ブロック技術者研究会 鈴木出席（於：横浜・金沢動物園）
- 1月26日 オオカンガルー（1頭） 育児嚢より仔 顔出すのを確認
- 1月29日 カイウサギ（雄1） 市内小学校へ所管替にて搬出
飼育技術者研修会 実施（於：千葉市動物公園） 参加
16園館、28名
- 1月30日 クロヅル（雄1） 交換にて新着
牧野 辰男（Tatsuo Makino）



ペルーイワドリ



Information

3月・4月・5月の 催し物一覧

- ★ 3月21日金 ZOOクイズラリー
- ★ 3月23日金 ワンポイントウォッチング カピバラ
- ★ 3月25日火 ゴリラワークショップⅡ
- ★ 4月20日金 ワンポイントウォッチング フサオマキザル
- ★ 5月11日金 ファミリーシアター(1)
- ★ 5月18日金 ゆかいな森の音楽会(春)
- ★ 5月24日土 ワンポイントウォッチング キジ類
- ★ 5月25日金 ヒツジの毛刈り

上記以外の土曜・日曜・休日は動物公園映画会を上映